

令和 4 年 2 月 10 日時点

(1) 事務事業の概要		
① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない	
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 19 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 令和 年度まで	国道126号から、(主)大栄・栗源・干潟線までを結ぶ本路線を整備することで、広域的なネットワークが確立され、首都圏へのアクセスも多様化するなど地域の産業振興の発展と生活基盤の活性化が図られる。	
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等
【開始の経緯】 ① 産業振興の発展 ② 通勤時間帯の渋滞緩和・利便性の向上	【課題】 難航していた用地取得は完了したが、10年以上前に設計した道路線形に修正が生じ、工事発注が困難。	早期完了を望む要望が多数有

従事職員数 常時 2 人 最大 人 × 日 = 延べ 人

		① 主な活動	⇒	③ 活動指標名	単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	1年度 (実績)	2年度 (実績)	3年度 (計画)
手段		2年度実績(2年度に行った主な活動) 用地買収済区間における約300mの区間について道路改良工事(掘削工)を実施中。		ア 用地買収率(面積ベース)	%	86.0	99.0	100.0	100.0	100.0
				イ 整備延長	m	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0
		② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	⇒	④ 成果指標名	単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	1年度 (実績)	2年度 (実績)	3年度 (計画)
目的	対象 意図	利用者(市民) 安全・安心かつ円滑な道路交通の確保が図れる		ア 工事進捗率	%	46.0	46.0	46.0	46.0	60.6
	対象 意図	市道 安全性の向上		イ 道路整備済延長	m	495.0	495.0	495.0	495.0	655.0

		①成果優先度評価結果			②コスト削減優先度評価結果			
		成果向上余地			コスト比率			
		かなりある	ある程度ある	ほとんどない	下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3	
施策貢献度	大きい	①			(1)			
	普通				②			
	小さい				③			
評価結果	成果優先度	④⑤			⑥			
		⑦⑧			⑨			

年度	ア (比率%)	イ (比率%)
H29	45.0	500.0
H30	45.0	500.0
R1	45.0	500.0
R2	45.0	500.0
R3計画	60.0	650.0

① 進捗状況																
評価内容	☐ 完了 ☐ 順調 ☒ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難 【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)															
	② 成果の状況		成果指標ア	成果指標イ		数値増＝成果向上	☐ 向上	☒ 横ばい	☐ 低下	成果動向	比較	28年度	29年度	30年度	1年度	2年度
					数値増＝成果向上	☐ 向上	☒ 横ばい	☐ 低下			29年度	30年度	1年度	2年度	3計画	
	【コメント】 (低下の場合、その理由)										ア	0.0	0.0	0.0	0.0	14.6
										イ	0	0	0	0	160	
	③ 今年度取組事項 (3年度に取り組む主な事項について記載)		時期	内容			今後の方向性									
							☐ 拡大 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 廃止・休止	☐ 見直し ☐ その他()							
	令和3年度	道路改良工事を進める														